

SPIRIT GARDEN HALL

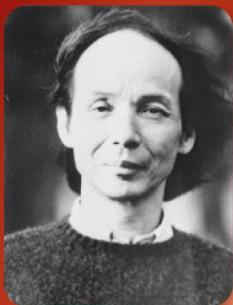
スピリットガーデンホール

武満 徹と「Spirit Garden」

故武満徹氏(1930—1996)は、現代音楽を切り拓いた音楽家として、世界的に最高の評価を受ける偉大な作曲家です。1994年に古川町の委嘱によって「オーケストラのためのスピリット・ガーデン(精霊の庭)」が作曲されて、東京サントリーホールで開催された飛騨古川国際音楽祭・東京特別公演で世界初演されました。音楽を通じて世界に飛騨古川が発信されています。

武満氏が日本の伝統に惹かれて新たな地平を築いたように、この施設をこれからの世代が「飛騨の伝統を学びながら新しい文化を育む場」として、偉大な武満氏の姿勢にも学びながら活用されていく願いをこめ、このかけがえのない武満氏への委嘱作品のタイトル「Spirit Garden」をホールの名称としています。

武満徹氏プロフィール



1930年生まれ。戦後日本が生んだ国際的な作曲家であり、バルトーク・ストラヴィンスキーと並ぶ20世紀、特に後半における世界で最も重要な作曲家であり、その評価は国内のみならず国際的にも認められ、日本の抒情に満ちた曲想の中に宿される文明論的な本

質は、内外の音楽愛好家の心をとりえて離さない。思想家としての文筆活動でも一般の存在であり「時間の園丁」など多数の著書がある。清瀬保二に師事、独学で作曲を学ぶ。1951年交友していた画家・音楽家たちと「実験工房」を結成。1957年「弦楽のためのレクイエム」は日本現代作品の古典的地位を占めた。1967年ニューヨーク・フィルハーモニー創立125周年委嘱作品「ノベンバー・ステップス」では邦楽器をとりあげ新しい展開をみせ国際的に高く評価された。モリス・ラベル賞など数々の受賞歴に輝いている。「乱」等の映画音楽、ラジオ、テレビ、ポップス、合唱曲などバラエティに富んだ作品が多数残されている。1996年逝去。

武満徹氏のことは

スピリット ガーデン、飛騨古川について

飛騨古川町には、例年、4月19、20、21日の3日に亘って行われる春祭りがあり、それは特に「起し太鼓」の名で有名である。

飛騨古川音楽大賞をうけたことがきっかけとなって、私は機会ある度にこの町を訪ねるようになった。

はじめての時から、私はこの飛騨山間の小さな町とそこに住まう人々に魅せられてしまったのだが、とりわけ、年に一度の祭りに接してからは、すっかりこの町の虜になってしまった。荒々しさと典雅さがいりまじった祭りは大変独特なもので、あの太太鼓のゆったりとした底深い響きは、いつまでも忘れられない。

こうした聖なる空間が未だにこの地上に存在することを、私は何にも換え難い貴重なこととして感じている。古川町からの委嘱作に、「Spirit Garden—精霊の庭」という題を付したのも、それ故である。

飛騨古川国際音楽祭・東京特別公演リーフレットより
1994年7月14日

『オーケストラのためのスピリット ガーデン(精霊の庭)』

作曲に至る経緯

～武満徹と飛騨古川～

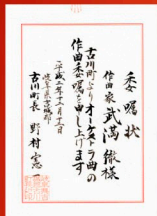
古川町民有志の中から、世界最高峰の作曲家武満徹氏に町で作曲を委嘱できないかという夢話が語られ始めたのは、昭和50年代後半まで遡ります。まちの音楽文化活動が活発化していく中、音楽による町おこしとホール建設の実現を目指す当時の町長より、その頃同町に別荘を構えられた指揮者小泉和裕氏に、その実現に向けて協力依頼がなされました。これを受け小泉氏より武満徹氏をはじめ、日本の代表的な音楽家、関係文化人をご紹介頂き、昭和63年には、飛騨古川音楽大賞を制定することが決定しました。そして、



第1回飛騨古川音楽大賞の大賞を受賞
平成元年10月18日

この第1回大賞受賞者として武満氏が選出されることとなり、受賞をお伝えするとともに、作曲委嘱をお願いをし、ご内諾を頂きました。

こうして平成元年、第1回飛騨古川音楽大賞の授賞式に初のご来訪を頂き、武満氏と古川町との関わりが始まることとなり、平成2年12月には、古川町長より正式に委嘱状をもって作曲が委嘱されました。作曲に際し、まちの印象をよりお感じいただくため、平成3年にはご夫妻で古川祭をご覧いただき、大変に感銘を受けられました。また平成2年の第2回音楽大賞からは、その選考委員としてご就任いただいたことで、ご来訪も度重なることとなり、町の人々との親交も深まっていきました。



武満氏に作曲委嘱した委嘱状
平成2年12月12日



深い感銘を受けられ、作曲に大きな関係を与えた
古川祭「起し太鼓」



古川祭をご覧になれる武満ご夫妻。武満氏はこの祭りに接し、町の虜となられた。



平成3年4月20日



古川にもすっかり馴染まれ、
ゆったりとまちに滞在された。
ときにはカラオケまで披露された。

作曲にかかる武満氏のことば

毎日新聞・夕刊 武満徹氏執筆「時の園丁」本文中より

いま私は、岐阜の美しい町、古川町からの委嘱で、久し振りに日本のオーケストラのために、この夏初演される曲を書いている。

古川の自然や、あの町の人びとの優雅な生活のたたずまいを思うと、小手先細工のようなものだけは作りたくない。古川町の春の祭りに鳴らされる太鼓の深い響きは、威儀を正した古老のような人格を見ているように感じられる。あの響きの中から聞きとれるものを、少しでも多く聴き出せたらいいのだが、それにはまだ訓練が足りないようだ。曲の題は、Spirit Garden (精霊の庭) とした。

1994年4月11日

7月に演奏される「Spirit Garden」の作曲を終えて、予定された次の仕事までの時間を、好きに費がたいと思う。遠い緑を眺めてぼんやり過ごしたり、寝床の中の読書、映画館の暗闇に紛れ込んだり、友と酒を酌みたい。・・・書いたり削ったりということを繰り返して、それでも、なんとか「Spirit Garden」を書き終えた。前とは幾らか違った響きが聞こえて来るだろうか？

1994年5月16日

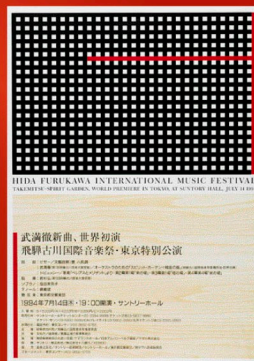
こうして平成5年5月に、武満氏の古川町への思いを大切に作曲された
委嘱作品「オーケストラのためのスピリットガーデン(精霊の庭)」が完成となりました。

「オーケストラのためのスピリットガーデン(精霊の庭)」

世界初演

平成5年7月14日、飛騨古川国際音楽祭・東京特別公演として東京都のサントリーホールで世界初演されました。指揮は第5回飛騨古川音楽大賞を受賞された若杉弘氏で、東京都交響楽団により演奏されました。

海外諸都市での初演が多くなっていた武満氏の新作の初演が、およそ十年ぶりに日本で行われるということで、音楽芸術界の大変な注目を集め、多くの著名な音楽家や文化人、芸能人が会場に訪れました。またこの日の演奏会はNHK FMで全国にも生放送されるなど注目の歴史的演奏会となりました。この初演の2ヵ月後にはドイツでもヨーロッパ初演され、ドイツ国内で全国放送されるなど日本全国のみならず世界に向けて武満氏の楽曲を通じ、飛騨古川が発信されました。



初演が終わり、舞台上挨拶をされる武満徹氏



地方のまちが、日本最高のコンサートホールでクラシック音楽界の注目を集める武満氏の初演コンサートを開催するという異例の快挙に多くの賛辞が集められました。



初演サントリーホールにて作曲家鳥籠郎氏と会話をされる武満氏。このコンサートには日本の著名な音楽家が数多く来場された

「超一流の音楽」「日本最高のコンサートホール」「最高のホスピタリティ」

飛騨古川国際音楽祭
東京特別公演ツアー
7月14日(土)午後7時開演
会場：サントリーホール

参加者募集!!

東京全日空ホテル
2,700円
無料 (当日までキャンセル可)

120名

参加費：2,700円 (当日までキャンセル可)

参加費：無料 (当日までキャンセル可)

参加費：2,700円 (当日までキャンセル可)

参加費：無料 (当日までキャンセル可)

地元古川町からも、この歴史的初演を聴くために208人ものが上京し、関東飛騨古川会々員など地縁者も多く集まるなど、地域一丸となってこの演奏会を迎えました。まさに一地方が全国に誇れる大きな行事となり地域も大変に盛り上がりしました。

「古川町イメージにオーケストラ曲」

武満徹さん作曲 きょう東京で初演

町民20人が上京し鑑賞

「精霊の庭」

この初演成功後の7月27日、東京芸術劇場において、同じ演奏者によりレコーディングが行われ、平成7年2月にはCDが発売されています